

「党本部と沖縄県連で普天間移設の意見が違う？」

平成 25 年 6 月 4 日

●まささんからの質問

自民党の参議院選挙の公約のうち、普天間移設の問題で党本部と沖縄県連が意見が異なるように聞いています。本当にこれで良いのでしょうか。西田さんの意見を聞かせてください。

●西田昌司の答え

自民党は普天間基地を辺野古（名護市）へ移設することを選挙公約としてきましたし、自民党沖縄県連、沖縄県知事、名護市長ともに移設の方向で話がまとまっていた。しかし、執拗に「政権交代」を叫ぶマスコミの後押しで民主党政権が誕生し、初代首相である鳩山由紀夫氏が移設先について「最低でも県外」などと無責任に発言してしまったために、移設に向けたそれまでの苦労が一気に水泡に帰することになってしまいました。

普天間基地を辺野古に移設したとしても米軍基地が沖縄にあることに変わりはありませんし、沖縄県民にとって喜ばしいことではないのは当然ですが、日本の安全保障の点から考えると沖縄に基地が集中するのもしやむを得ないところがありますので沖縄県連も消極的ではあっても移設に賛成してきたのです。しかし、民主党政権下といえども国が沖縄の米軍基地を認めないという発言をしてしまった以上、沖縄県連も移設に対して今や複雑な思いを抱いてしまっているのでしょう。

鳩山さんは後に「学ばば学ぶほど海兵隊の抑止力が分かった」などと発言して自らの過ちに気付いたようではありますが、沖縄県民に大変な政治不信を抱かせた鳩山さんの罪は計り知れません。鳩山さんを含めた民主党政権の

出鱈目さには今更ながら腹の立つ思いがしますし、沖縄県民には本当に申し訳ない気持ちで一杯です。

私は、普天間基地を辺野古に移設すべきとは思いますが、当面はそうやって米軍基地問題を緩和させるしかないのですが、しかし日本がいつまでも米軍に頼っていて良いわけがありません。「自分の国は自分で守る」という当たり前の国になるにはどうしたらよいかという議論が絶対に必要だと思います。

ところで、沖縄が安全保障上の要所とならざるをえないのは地理的に仕方のないことです。東アジアの地図を上下逆さまにして中国大陸から太平洋側を眺めると目の前に日本列島が鎮座していますし、中国からすると非常に邪魔だと感じるでしょう。沖縄が中国の手に落ちれば中国は東シナ海から自由に太平洋に出られますし、中国は喉から手が出るほど沖縄が欲しいのです。中国に領土的野心があるのは尖閣諸島に関する彼らの行動を見れば明らかです。

沖縄に基地を配備して防衛力を備えておかないと、領土的野心を剥き出しにしている中国に一気に飲み込まれてしまうといったことになりかねませんし、そうなった場合に一番不幸なのは沖縄県民です。沖縄県民からは「かつての基地のなかった平和な沖縄を返せ」といった声も聞こえてきますが、今の状況を考えると沖縄県民の安心した暮らしのためにも沖縄に基地が必要なのは言うまでもありません。

現行憲法は敗戦後、日本に主権のない時代に GHQ に押し付けられたものであり、日本を国家として自立させないことを目的としています。第九条で戦力を保持しないと謳っているにもかかわらず自衛隊を持つことにはなりましたが、「国防」の放棄を宣言して国家主権を投げ打つという、独立国としてあり得ない憲法を持つ日本は法制上、十二分な防衛力を持ってないといった状況に追い込まれています。野党を含めて自衛隊の存在を認めるまでにはなってきましたがまだまだ不十分ですし、私は先ずは現行憲法下でも集団的自衛

権の行使は認められるという憲法解釈をすることが必要だと思います。

今すぐに米軍に頼らずに自主防衛ができるわけでもありませんので、それまでの間は米軍の力も借りながらやっていかざるをえませんが、国民に粘り強い説得をしながら少しずつでも防衛力増強の方向に舵を切っていかなければなりません。普天間基地を辺野古に移設するとしても、将来的には基地から米兵が撤退しても自国を守れるという体制を築かなければなりません。外国人ではなく日本人が基地に就いて日本を守るというのであれば大方の沖縄県民も納得するでしょう。

中国はアメリカと並ぶ超大国ですが、中国共産党による一党独裁体制を敷いた非常に強権的な軍事大国でありますし、近年は経済力を背景にどんどん軍拡を進めており大変に脅威的な存在となっています。彼らは、かつての琉球のように中国に朝貢していた歴史を持つ周辺地は全て中国のものだといった思考をしますし、そんな彼らとは信頼関係を結ぶのも難しいでしょう。やはり中国は特殊な国なのです。

アメリカの国力が低下する一方で中国はますます強大化しており、アメリカは中国に寄り添う姿勢を見せ始めています。そんな落ち目のアメリカにとっては、さらに日本がアメリカと対等の関係にのし上がってしまえば鬱陶しいと感じるのでしょう。アメリカは日本の安全保障を肩代わりすることによって日本をコントロールしたいと思っているのでしょうが、日本はアメリカの従属国の立場にいつまでも甘んじていて良いわけがありません。

日本はアメリカと対等なのだという鳩山さんの発言は全くその通りなのですが、であるならば日本は現在の日米安保に依存している仕組みを乗り越えて、自主防衛路線を明確に打ち出していく必要があるのです。しかし、鳩山さんにはそういった気概や覚悟や政策もなく、ただ気分としての反米路線を言っているにすぎないのです。

日本が自立すればアメリカの負担も減ってアメリカにもメリットがあり

ますし、そうやって沖縄、及び日本の安全保障を強化していかなければなりません。私は先日の予算委員会でも安倍総理にこのような話をしましたが、日本が「自分の国は自分で守る」というまともな国になるよう、これからもしっかりと訴えていきたいと思えます。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>